



新年、明けましておめでとうございます。新元号「令和」になって初めてのお正月です。本年が皆様にとってすばらしい1年となりますようにお祈りします。さて、お正月を迎える準備として年末恒例の「お餅つき会」をしました。3歳以上子どもたちの行事として毎年行っています。伝統的な日本の文化に触れるという目的もあります。なによりも元気に過ごせた1年に感謝し、新しい1年も健康で過ごせますように願いを込めてお餅つきすることを子どもたちに話しました。当日は年長児の保護者の皆さんにお手伝いをお願いしました。ご夫婦で参加していただき、お父さんはつき手として、お母さんはお餅を丸めるお手伝いをしていただきました。お陰様で、無事にお餅つき会を終えることができました。改めてお礼申し上げます。当日の様子をみどり組の保育日誌からお伝えします。

〈みどり組〉

お餅つき会をとて楽しみをしていた子どもたち。昨日のうちから部屋の準備等を一生懸命手伝ってくれていた。集合時間よりも早めに登園していた子どもたちは、余裕をもってトイレに行ったりエプロン等の身支度をしたりすることができた。ぎりぎりの時間に登園してくる子どももいて、パタパタしてしまっただが、先に来て身支度の整っている年長児が同じグループの子を呼びに来てくれたり、身支度を手伝ってくれたりしてとても助かった。外の準備が整ったとのことで、予定より早めに園庭に出た。上着を着ずに出たが、みどり組は2番目につくことになっていたの、「寒い」と言う子どもも多く、途中から上着を着ることになった。今日のように日も当たらず寒い日は、待ち時間もあるので最初から上着を着たほうがよかったなと思った。初めにつくあお組のもち米を臼に入れるのを正面から見るすることができた。子どもたちの中には「すごい」と興奮気味の子もいた。みどり組がつく番になったら、みんな一生懸命杵を持ってついていった。部屋に戻って1人2個ずつお餅を丸め、お母さんたちがお代わり分もたくさん作ってくれた。お餅もつゆもみんなたくさんお代わりをして完食であった。昨年はまったく食べなかった凌太郎はお餅もつゆもたくさんお代わりをして完食であった。

また、3歳以上児の行事ですが、つぼみ組の子どもたちもお餅つきの様子を見ていたようです。

〈つぼみ組〉

午前中、室内で遊んでいると外からお餅つき会の声が聞こえてきた。詩がなんだという顔で窓のほうへ向かうと朱音や優太郎もそれに続く。保育者が窓を開け、見せようとするが、角度があってお餅をついている様子がちょうど見えない。「せっかく興味を持っているし、見せてあげたいな」と思い、山田保育者と相談する。2人で話し合い、外は寒いので、ジャンパーと靴下を用意して子どもたちに「お餅をついているから、見てみようか」と声を掛ける。外に出てみると、子どもはそれぞれ10回お餅をついていることが分かった。保育者が以上児の声に合わせて「1,2,3」と数えると、詩も「ちーち、ちー、たーん」と10まで数えた。ちょうど詩の姉の華がつく番だったので詩に教えると、「はなー」と応援しているようだった。寒かったので10分ほどで部屋に戻ったが、中に入ってから詩は「ちーち」と数えていて楽しめたことが分かった。少しの間だったが、お餅つきを見ることができてよかった。

年下の子どもたちは、年上の子どもたちのすることをしっかり見ていることが分かります。いつかは自分でという気持ちも育っています。3歳以上児の異年齢保育では、生活面・遊びの場面で年上は年下のお世話を自然にするようになっていきます。「子どもは子どもの中で育つ」と言われますが、この日誌の記録からそのことが実感できます。子ども自身が育とうとする意欲を育むのが幼児教育の真髄であることが改めて理解できました。(給食だよりに掲載してあります) 園長 平野弘和